

自動車業界に電動化の波が押し寄せ、京都や滋賀の自動車部品メーカーが電気自動車(EV)用部品の開発や生産に本格シフトしている。市場では今後ガソリンエンジン関連の受注が落ち込む一方、EVの大電流に対応できる部品や車体を軽量化する技術のニーズは高まるとみられる。「100年に1度」の変革期を迎え、各社は製法開発に注力するとともに、EV普及で先行する欧米や中国向けの販路開拓でも攻勢をかける。ただ、当面はガソリン車用の需要も続く見通しで、経営資源を集中投下できないといった移行期特有の課題も抱えている。(森静香)

大電流対応に需要

「EV向けは今の工場では追いつかないほどの受注がきている。生産能力の増強も進めるが、さらなる拠点の拡大が必要だ」。自動車部品を手掛けるサンコールの奈良正副社長は、旺盛な需要に手応えを示す。

高度な金属加工を得意とする同社は創業から80年、弁ばねなどのエンジン向け部品を供給してきた。近年は大電流対応の配電部品「バスバー」など、電動化を見据えた製品を強化。欧米や中国の市場にも食い込み、2025年度にバスバーと電流センサー事業で売上高計50億円を目指す。

特にEVの大電流を高精度に測定できる「シャントバスバー」は、21年に北米大手のEVに採用されるなど引き合いが活発だ。20年開設の京都南工場(京都市南区)に加え、今秋には山梨県内で生産ラインが稼働する計画だが、需要増に対応するためさらなる設備投資が必要という。

時期が不透明

欧州や中国で急速に進むEVシフト。トヨタが26年までにEVの世界販売数を年150万台とする方針を打ち出すなど、日系メーカーの動きもようやく本

社長も「エンジン向け部品が減るのは分かってはいるが、少ない状態で残ると生産効率が悪くなる。実際にいつシフトしていくのか、頭の痛い課題だ」と打ち明ける。

軽量化に強み

「EVシフトはわれわれにとってゲームチェンジを起こすチャンスだ」

自動車用の配電・通信線「ワイヤハーネス」が主力の古河AS(滋賀県甲良町)の阿部茂信社長は自信をのぞかせる。同社の売上高は21年度で1233億円。今後は電動化の流

京滋車部品企業 EVシフト



ワイヤハーネスの製造現場。自動車の電動化で、軽量化が期待できるアルミ素材製品のニーズが高まっている(滋賀県甲良町・古河AS)



EVの電流を高精度に検出できるサンコールの自動車部品。ガソリン車用の部品で培ってきた加工技術も生かされている

ガソリン車用受注も続く

移行期、資源集中に課題も

「EV向けは今の工場では追いつかないほどの受注がきている。生産能力の増強も進めるが、さらなる拠点の拡大が必要だ」。自動車部品を手掛けるサンコールの奈良正副社長は、旺盛な需要に手応えを示す。

高度な金属加工を得意とする同社は創業から80年、弁ばねなどのエンジン向け部品を供給してきた。近年は大電流対応の配電部品「バスバー」など、電動化を見据えた製品を強化。欧米や中国の市場にも食い込み、2025年度にバスバーと電流センサー事業で売上高計50億円を目指す。

特にEVの大電流を高精度に測定できる「シャントバスバー」は、21年に北米大手のEVに採用されるなど引き合いが活発だ。20年開設の京都南工場(京都市南区)に加え、今秋には山梨県内で生産ラインが稼働する計画だが、需要増に対応するためさらなる設備投資が必要という。

時期が不透明
欧州や中国で急速に進むEVシフト。トヨタが26年までにEVの世界販売数を年150万台とする方針を打ち出すなど、日系メーカーの動きもようやく本

社長も「エンジン向け部品が減るのは分かってはいるが、少ない状態で残ると生産効率が悪くなる。実際にいつシフトしていくのか、頭の痛い課題だ」と打ち明ける。

軽量化に強み
「EVシフトはわれわれにとってゲームチェンジを起こすチャンスだ」

自動車用の配電・通信線「ワイヤハーネス」が主力の古河AS(滋賀県甲良町)の阿部茂信社長は自信をのぞかせる。同社の売上高は21年度で1233億円。今後は電動化の流

